

ラジオCM素材搬入基準

【2015年9月版】

2015年9月28日適用

一般社団法人 日本民間放送連盟・ラジオ委員会

一般社団法人 日本広告業協会・ラジオ小委員会

はじめに

日本民間放送連盟では、ラジオCM素材の搬入・連絡などについて、広告会社、CM制作会社の実務担当者の参考となるよう、1988年に「ラジオCM素材取り扱い要領」を取りまとめ、さらに、2005年には3.5インチMOディスクを搬入メディアとするための改訂を行い、関係者に広くご利用いただいております。

しかしながら、MOディスクは、2018年3月末に販売終了予定であり、市場での流通も少なくなっております。また、MOドライブは、2012年3月末でメーカーサポートが終了し、MO機器の保守が難しくなりつつあります。

こうした状況を踏まえ、2014年9月から日本民間放送連盟・ラジオ委員会と日本広告業協会・ラジオ小委員会では、連携してラジオCMオンライン運用に向けた検討を開始し、2015年5月には日本民間放送連盟・ラジオ委員会に取りまとめた「ラジオCM素材搬入手段の今後の方向性」を共有しました。

この方向性では、「MOディスクの代替メディアは規定せず、できる限り早期のラジオCMオンライン運用を実現することとする。そのため、すみやかにラジオCM素材取り扱い要領の改訂を行い、ラジオCMオンライン運用に対応した新規ファイルフォーマットとその運用ルールを定め、周知徹底を図ることとする」としたうえで、今後の検討手順と課題を整理し、目標スケジュールを定めております。

本搬入基準は、この検討手順の第1段階で示した「ラジオCM素材取り扱い要領(2005)」の改訂に代えて制定するもので、日本民間放送連盟と日本広告業協会との連名で定め、放送局・広告会社・CM制作会社の担当者の方々に周知・徹底を図ることにいたしました。

本搬入基準【2015年9月版】は、2015年（平成27年）9月28日以降に搬入するラジオCM素材から適用します。

今後、ラジオCM素材のオンライン送稿手段やその運用ルールなどの詳細を検討し、適宜、本搬入基準の改訂を行ってまいりたいと考えております。それまでの間は、MOディスクによるラジオCM素材の搬入にご協力をお願いいたします。

CM業務の円滑な運行と放送事故の防止のため、本搬入基準をご活用いただければ幸いです。

2015年（平成27年）9月 日本民間放送連盟・ラジオ委員会
日本広告業協会・ラジオ小委員会

目 次

◆はじめに	
◆ラジオCM素材搬入基準（2015年9月版）	
1. 搬入CM素材	1
2. CM素材の搬入締切日	1
3. CM素材に関する留意点	1
4. MOディスクで搬入する場合の留意点	
(1) MOディスクについて	3
(2) 連絡・搬入	5
(3) 放送終了後のCM素材の取り扱い	6
◆参考資料	
1. ラジオCM素材搬入手段の今後の方向性について	9
2. 民放連技術規準	
R024：音声ファイルによる番組交換暫定規準	11
◆付録：進行表・素材明細表 統一様式	19

ラジオCM素材搬入基準【2015年9月版】

本搬入基準は、ラジオCMオンライン運用に向けて、ラジオCM素材のファイルフォーマットを明確化したものです。オンライン送稿の手段とその運用ルールは、今後の改訂版で定めますので、それまでの間は、これまでどおり、3.5インチMOディスク（以下、MOディスク）によりラジオCM素材を搬入してください。

なお、MOディスクによるラジオCM素材の搬入は、これまでの運用から変更はありません。また、MOディスク以外で搬入する場合は、当該者間の事前の取り決めによるものとします。

1. 搬入CM素材

- ① ラジオCM素材の音声ファイル（以下、ラジオCM素材ファイル）は、BWF-Jファイルフォーマット形式にCM固有の情報を付加したBWF-J〔CM拡張仕様版〕とします。
- ② ラジオCM素材ファイルには、CMチャック情報を入力し、CM原稿を添付してください。CM原稿は、搬入するCM素材（1タイプ）のみを添付することとし、関係のない原稿は添付しないでください。

2. CM素材の搬入締切日

CM素材の搬入締切日は、放送日の4日前（中3営業日）ですので、必ず守ってください（特に、支社・支局に搬入する場合は、期日・時間にご注意ください）。

なお、ネット番組やネットスポットなどの場合には、CM素材の搬入締切日が早まります。また、年末年始、ゴールデンウィーク等、祝日が続く場合は別に定めま

す。

3. CM素材に関する留意点

- ① 収録前に、必ず放送局の考査を済ませてください。
- ② CMの長さ（秒数）は、必ず「規定の秒数内」に収めてください。また、1秒以上短くならないようにしてください。
- ③ CMは適正なレベル（音量）で録音してください。
- ④ 素材タイトルは、クレジット、CM原稿、外箱で統一してください。
- ⑤ CM原稿は、CM素材の確認に必要です。必ずCM素材本編と同一のもの（最終原稿）を添付してください。添付できない場合は、当事者間の事前の取り決めによるものとします。

- ⑥ ラジオCM素材ファイルのファイル名は、32文字以下の、半角英数字および一部記号(ハイフン“-”、アンダーバー“_”)のみを使用し、拡張子は「.wav」としてください。その他の文字(漢字・ひらがな・カタカナ)は使用しないでください。

【使用できないファイル名の例】

123456789ABCDEF0123456789ABCDEF01.wav …… 32文字を超えている。

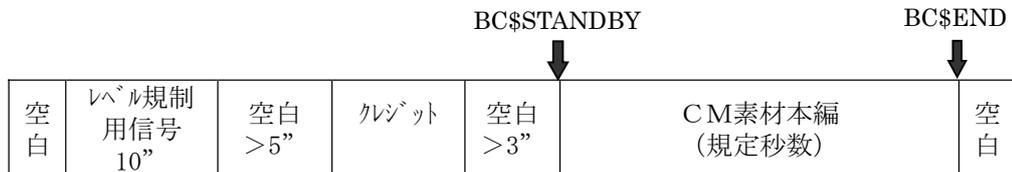
ラジ`oCM.wav …… 半角カナ文字を使用している。

新商品告知1.wav …… 漢字を使用している。

C(1).wav …… 使用できる記号はハイフン“-”とアンダーバー“_”のみです。

- ⑦ 音声ファイル形式はリニアPCM、チャンネル数は2、量子化レベルは16ビット、サンプリング周波数は48kHzとしてください。
- ⑧ 基準量子化レベルは-20dBFSです。
- ⑨ 音声ファイルには「レベル規正用信号(1kHz)」を10秒録音し、次いでクレジット、CM素材本編の順に収録してください。

【録音開始部の構成】



[1つの音声ファイルには1つのCM素材本編のみ]

<※録音開始部の構成については、民放連技術規準と異なっているため、ご注意ください。>

- ⑩ BC\$ラベルについては、CM素材の本編開始位置にはBC\$STANDBYを、本編終了位置にはBC\$ENDを必ず書き込んでください。BC\$START、BC\$STOPは任意とします。
- ⑪ 1つのラジオCM素材ファイルには1つのCM素材本編のみの収録とし、2つ以上のCM素材本編を収録しないでください。

- ⑫ ラジオCM素材ファイル内には、別途CM情報記述用ソフトウェア等を使用し、以下のCMチャンク情報を入力してください。

CMチャンク情報		運用ルール
素材	素材番号共通コード <注>	ユニークな10桁のCM素材コードとすること
	素材制作日	形式：YYYYMMDD
	素材タイトル	簡潔であること 全角30文字以内とすること CM原稿のタイトルと一致していること
	秒数	形式：SSS
広告主名		CM原稿の広告主名と一致していること
広告会社名		CM制作時の扱い広告会社の正式社名とすること
制作会社名		正式社名とすること
考査情報<注>		CM素材の収録前に放送局の考査を済ませたうえで、チェックを入れること
素材注意情報<注>		事故防止のために必要な情報があれば入力すること

<注> オンライン運用時に必要となる情報であり、現在、仕様を検討中です。

MOディスクで搬入する場合の入力は不要です。

4. MOディスクで搬入する場合の留意点

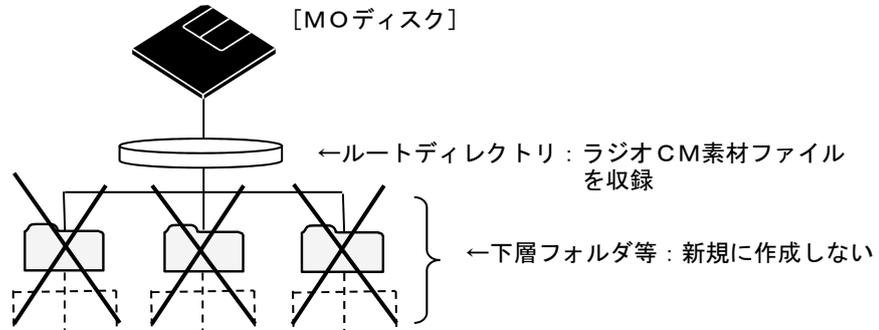
(1) MOディスク

- ① MOディスクは、Windowsフォーマット済みのものを使用してください。フォーマットされていないものを使用する場合や、MOディスクを再使用する場合は、FAT16ファイルシステム形式でフォーマットしたものを使用してください。
- ② MOディスクの容量については、230MB・640MB・1.3GBのいずれかの容量のものを使用してください。

	使用できるMO	使用できないMO
容量	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">230 MB</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">640 MB</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">1.3 GB</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">128 MB</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">540 MB</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">2.3 GB</div> </div> ほか
フォーマット	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Win 用</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">FAT16</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Mac 用</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">FAT32</div> </div> ほか

- ③ ラジオCM素材ファイルは、全てルートディレクトリに収録し、その他のフォルダ等を作成して収録しないでください。

MOディスク内のフォルダ
(ディレクトリ)階層構造の概念図



- ④ MOディスク本体には、「RCM」のロゴ、広告主名、素材タイトル、MOディスク識別用の一意の番号（以下、識別番号）を記入したラベルを貼り付けてください。
- ⑤ MOディスクを収納する外箱には、「RCM」のロゴ、広告主名、広告会社名、素材タイトル、ファイル名、録音年月日、録音機器、MOディスクと同一の識別番号、技術情報等の必要事項を明記してください。

【記入例】



《MOディスク本体》



《外箱》

- ⑥ MOディスクによるラジオCM素材搬入の実情を踏まえ、CM原稿は紙面に必ず添付してください。
- ⑦ 1枚のMOディスクには、複数のラジオCM素材ファイルを収録することができますが、その際には全てのCM素材が同一の広告主でなければなりません。

- ⑧ 1枚のMOディスクに複数のラジオCM素材ファイルを収録する場合は、これらのファイルとCM素材タイトルが関連付けられたラジオCM素材明細表を紙面にて添付してください。ファイル名の冒頭の6文字で各々のCM素材が判別できるようにしてください。ファイル名の冒頭には、収納順に01、02・・・と2桁の番号を付けることを推奨します。

<推奨するファイル名の例>

01NPC1. wav
02NPC2. wav
03SALE. wav

- ⑨ MOディスクは、必ず複製されたものを搬入してください。マザーをそのまま承ることはできません。

(2) 連絡・搬入

搬入されたCM素材は、考査および内容チェックの時間が必要です。これにより放送開始日を遅らさざるを得ないことのないように早めに搬入願います。

<CM進行表・素材明細表>

- ① CMの放送指示は、日本民間放送連盟と日本広告業協会が共同で作成した統一様式のCM進行表・素材明細表で行ってください。コンピュータ等で独自のシステムを運用している場合は、この統一様式に準じた内容をお願いします。

【CM進行表】

- ・番組…………… ラジオ番組CM進行表
- ・ナイター……… ラジオナイターCM進行表
- ・スポット……… ラジオスポットCM進行表

【素材明細表】

- ・ラジオCM素材明細表

- ② 記載事項は、誤解の生じないよう明確に記入してください。
- ③ 素材タイトルは、全て統一してください。
- ④ CM進行表は、契約毎に発行してください。
- ⑤ CM進行表は、原則、MOディスクと同時に搬入してください。
- ⑥ 同じCMを長期にわたり連続使用する場合も、CM進行表を搬入してください。

<訂正変更>

- ① CM進行表を訂正・変更する場合は、必ず電話連絡の上、訂正変更した正規

のCM進行表を搬入してください。その際、変更点は誤解の生じないように明記してください。

- ② 緊急措置としてファックスまたは電子メールを使用することがありますが、必ず電話で送信・着信の確認をお願いします。その際も、後便で正規のCM進行表を搬入願います。

(3) 放送終了後のCM素材の取り扱い

- ① 放送終了後のCM素材は返却しますので、回収してください。
- ② 近日中に再使用が決まっている場合は、その旨を指示してください。
- ③ 放送中のCM素材の返却はお受けできません。

参考資料

- ◆ラジオCM素材搬入手段の今後の方向性について 9
- ◆民放連技術規準
 - R024 : 音声ファイルによる番組交換暫定規準 11

ラジオCM素材搬入手段の今後の方向性について

1. 背景

「ラジオCM素材取り扱い要領」（2005年改訂版）では、搬入メディアを「3.5インチMOディスク」に限定（移行期間中は6mmオープンリールテープの併用も可）している。

しかしながら、MOディスクは、平成30年（2018年）3月末に販売終了予定であり、現状、市場での流通も少なくなった。また、MOドライブは、平成24年（2012年）3月末でメーカーサポートが終了しており、MO機器の保守が難しくなっている。

そのため、ラジオCM運行部会では、日本広告業協会「ラジオ小委員会」と連携し、ラジオCM素材搬入手段の今後の方向性について整理した。

2. ラジオCM素材搬入手段の今後の方向性

MOディスクの代替メディアは規定せず、できる限り早期のラジオCMオンライン運用を実現することとする。

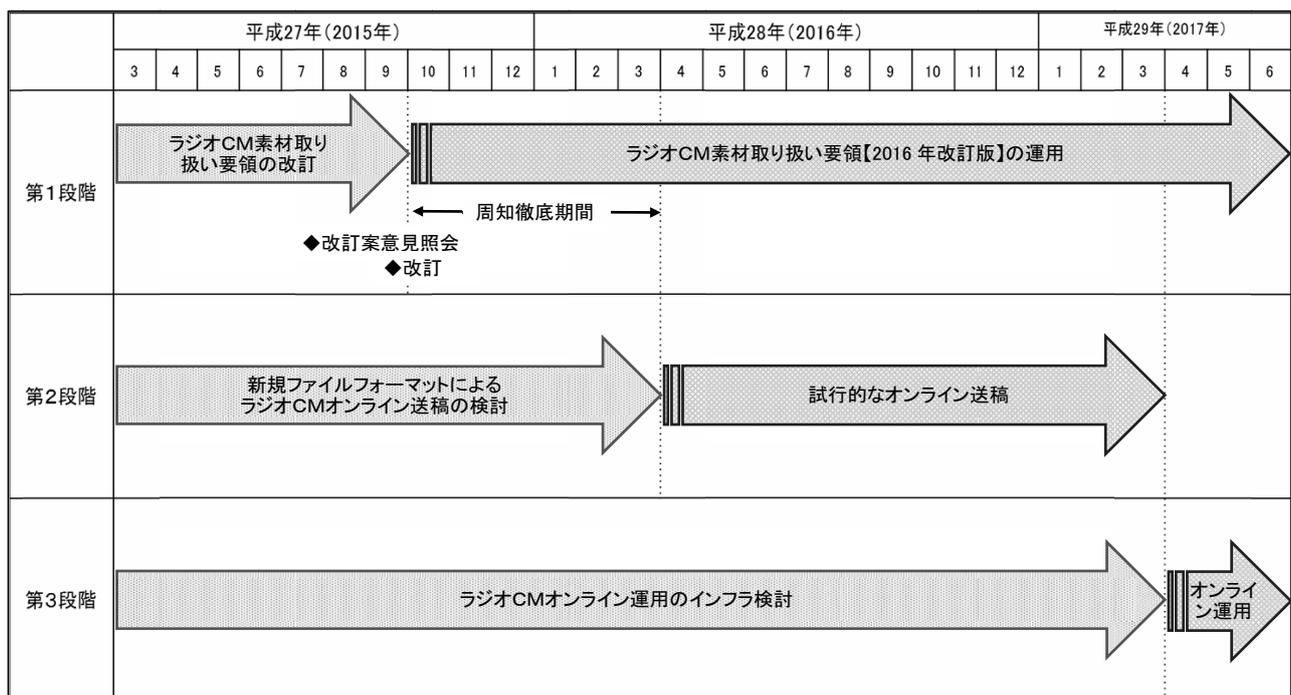
そのため、すみやかに「ラジオCM素材取り扱い要領」の改訂を行い、ラジオCMオンライン運用に対応した新規ファイルフォーマットとその運用ルールを定め、周知徹底を図ることとする。

3. オンライン運用の検討手順と目標スケジュール

①ラジオCM素材取り扱い要領の改訂、②新規ファイルフォーマットによるラジオCMオンライン送稿の検討、③ラジオCMオンライン運用のインフラ検討の3段階に分けて検討する。

検討手順	検討課題	目標スケジュール
第1段階 ラジオCM素材取り扱い要領の改訂	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きBWF-Jを採用のうえ、オンライン運用に必要なチャック情報を追加する新規ファイルフォーマットを検討 CM素材に添付するCM内容原稿や連絡票などをペーパーレス化 新規ファイルフォーマット対応のコンバータソフトを開発・リリース 	～平成27年 (2015年) 9月
第2段階 新規ファイルフォーマットによるラジオCMオンライン送稿の検討	<ul style="list-style-type: none"> 試行的なオンライン送稿手段とその運用ルールの確立 共通CMコードによる素材管理 セキュリティの確保 	～平成28年 (2016年) 3月
第3段階 ラジオCMオンライン運用のインフラ検討	<ul style="list-style-type: none"> 受信サーバー型やダウンロード型などのオンライン運用インフラの比較検討 E D I の導入検討 共通考査の可能性検討 	～平成29年 (2017年) 3月

<目標スケジュール>



N A B 技術規準 音声ファイルによる番組交換暫定規準	R024-2004
<p>1. 適用範囲</p> <p>この規準は、音声ファイルによる番組交換の際に適用する。番組とは一般番組とCMを指すものとする。</p> <p>2. 用語の意味</p> <p>2.1 dB FS デジタル音声信号における録音レベルを表し、最大量子化レベルより α dB低い値を“$-\alpha$ dB FS”と表す。(FS : Full Scale)</p> <p>2.2 プログラム “本編”と“CM”から構成される全体を指す。</p> <p>2.3 プログラム再生開始位置 プログラムの先頭部分に指定される再生開始位置を指す。</p> <p>2.4 プログラム再生動作終了位置 プログラムの末尾部分またはそれ以降に指定される再生動作終了位置を指す。</p> <p>3. 音声ファイル形式</p> <p>BWF-Jで定めるWAVE形式(2チャンネル)のリニアPCMとし、量子化レベルは16ビット以上、サンプリング周波数は48kHz、基準量子化レベルは-20dB FSとする。</p> <p>4. ファイルの運用</p> <p>4.1 複数番組収録の禁止 1番組ファイルには複数番組を収録してはならない。</p> <p>4.2 時間の連続性 プログラムはプログラム再生開始位置から再生動作終了位置まで連続して再生される。</p> <p>5. 音声チャンネルの運用</p> <p>5.1 モノラル録音 チャンネルL, Rの両音声チャンネルに同一レベル、同位相で録音する。</p>	
平成16年7月制定	社団法人 日本民間放送連盟

5.2 ステレオ録音

チャンネルLに左チャンネル音声，チャンネルRに右チャンネル音声を録音する。

6. 録音開始部

録音開始部は，モノラル録音の場合は図1の順序で，ステレオ録音の場合は図2の順序で，クレジット，レベル規正用信号および空白を連続して録音する。

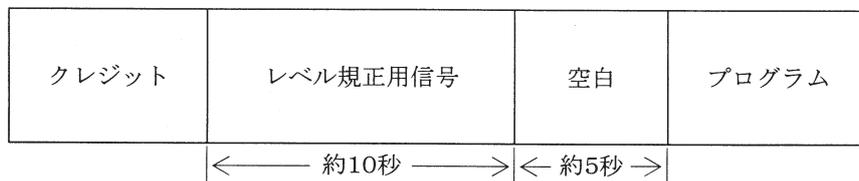


図1. 録音開始部 (モノラル)

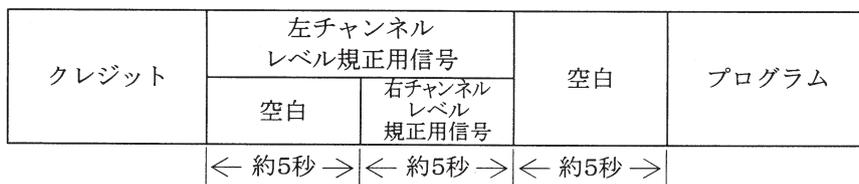


図2. 録音開始部 (ステレオ)

6.1 クレジット

クレジットは，左右両チャンネルに次のとおり録音する。

〔〇月〇日放送〕⁽¹⁾，〇〇制作，番組名，〔ロール番号〕⁽²⁾

6.2 レベル規正用信号

レベル規正用信号は1,000Hz⁽³⁾とし，NAB技術規準R021「デジタル録音における基準量子化値」で規定する基準量子化レベル（-20dB FS）で録音する。

(1) モノラル録音

左右両チャンネル同時に同位相で約10秒間録音する。

注⁽¹⁾ []内は必要に応じて入れること。

⁽²⁾ []内は必要に応じて入れること。

⁽³⁾ 1,000Hzの周波数偏差は，±10%以内とする。

(2) ステレオ録音

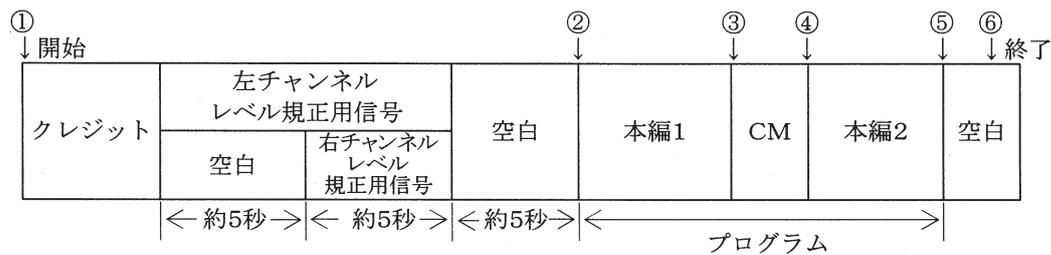
はじめの約5秒間は左チャンネルのみに、次の約5秒間は左右両チャンネル同時に同位相で録音⁽⁴⁾する。

6.3 空白

レベル規正用信号後、番組開始まで約5秒間無音声とする。

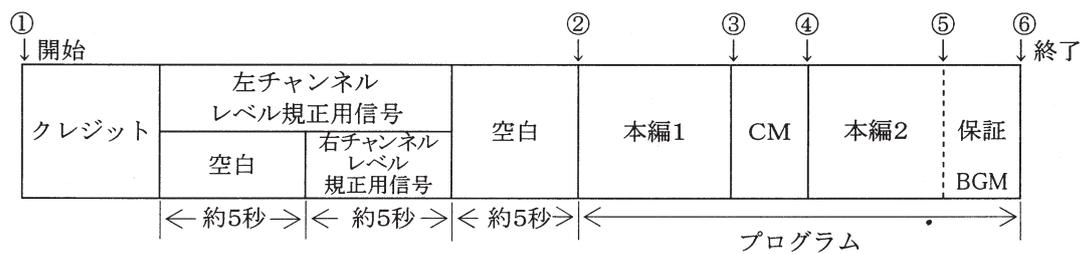
7. BC\$ラベルの運用

本暫定規準では、BC\$STANDBYの付加を必須とし、それ以外のBC\$ラベルの使用については、当該者間の事前の取り決めによるものとする。BC\$ラベルの使用例を図3、図4、図5に示す。



①BC\$START ②BC\$STANDBY ③BC\$CM ④BC\$START ⑤BC\$END ⑥BC\$STOP

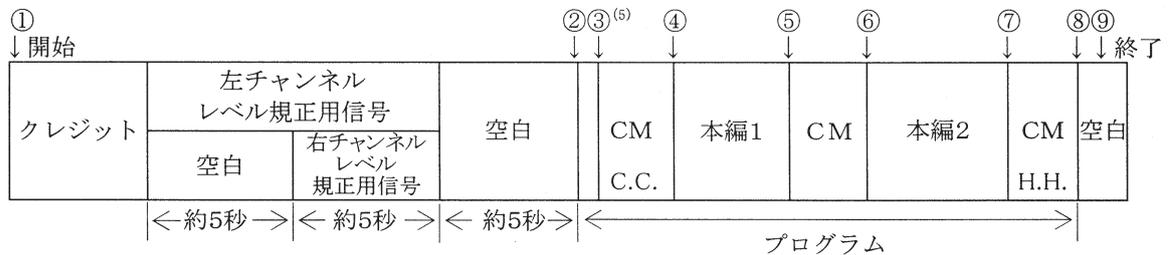
図3. 本編がカットアウトで終了する場合の例 (ステレオ)



①BC\$START ②BC\$STANDBY ③BC\$CM ④BC\$START ⑤BC\$END ⑥BC\$STOP

図4. 本編を時間でフェードアウトして終了する場合の例 (ステレオ)

注(4) 左チャンネルの信号は、中断することなく連続して録音する。



①BC\$START ②BC\$STANDBY ③BC\$CM ④BC\$START ⑤BC\$CM ⑥BC\$START ⑦BC\$CM
⑧BC\$END ⑨BC\$STOP

図5. CM (カットアウト) で終了する場合の例 (ステレオ)

7.1 BC \$ STANDBY (再生動作の待機)

プログラム再生開始位置に記録する。

必ず付加しなければならず、また、1ファイルに複数存在してはならない。

7.2 BC \$ START

任意の位置にマークとして記録する。

7.3 BC \$ CM (CM-CUEによる制御)

CM差し替え位置に記録する。

7.4 BC \$ END (END-CUEによる制御)

END-CUEを出力したい位置に記録する。

7.5 BC \$ STOP (再生動作の終了)

プログラム再生動作終了位置に記録する。

8. 記載事項

交換する番組には、次の事項を記載した録音内容表を添付する。

- (1) タイトル名 (サブタイトル含む)
- (2) 同一番組が複数ファイルにわたる場合は、その送出順
- (3) モノラル, ステレオの区別
- (4) 録音機種
- (5) 録音年月日, 放送年月日
- (6) 担当社名, 担当制作者名および担当技術者名
- (7) 番組に関する注意事項
- (8) 技術的連絡事項

注⁽⁵⁾ ②BC \$ STANDBYと③BC \$ CMは1サンプル以上の間隔を空けて指定する。

解 説

1. 制定の主旨

これまでの番組交換は、NAB技術規準R003「ステレオ録音テープによる番組交換」、R011「モノラル録音テープによる番組交換」およびR022「DATテープによる番組交換」によって行われてきた。このうち、R003とR011は6.3mm幅磁気録音テープ（R001「音声用標準テープレコード」に適合）を用いたものであるが、同テープは国内生産が終了したことから、今後、長期的な運用が困難になることが想定される。また、DATテープについては、番組交換規準が整備されたものの、放送局において広く採用されるには至らなかった。さらに、局内運用のデジタル化に伴い、WAVEファイル（Windows標準の音声ファイル形式）が多用される現状を踏まえ、デジタル時代の新たな代替メディアによる番組交換規準の整備を求める意見が多くなってきた。こうした中、ITU-R（国際電気通信連合・無線通信研究委員会）では、EBU（欧州放送連合）が策定した放送用音声ファイルフォーマット「BWF（Broadcast Wave Format）」（EBU Standard N22）を勧告化（Rec.BR.1531）するとともに、国内においても社団法人日本ポストプロダクション協会（JPPA）がBWFを日本向けに機能拡張した「BWF-J レベル1 運用規定」を発行しており、すでにこれに対応した放送機器の製造・販売が行われるなど、国内外において音声ファイルの標準化の動きが活発になっている。

本暫定規準は、こうした状況を踏まえ、CMを含む音声番組の交換が音声ファイルにより可能となるよう、その運用上のルールを定めることを目的に制定する。ただし、現時点では、①音声ファイルが記録可能な物理メディアが多種にわたっており、放送局向けに最適な物理メディアの特定は容易ではないこと、②今後出現する物理メディアや電子的交換を含め、将来、どのような番組交換手法が広く活用されるのか予測ができないことなどから、今回は暫定規準と位置付けることとし、記録する物理メディアについては、特に規定しなかった。しかしながら、CMを含む音声番組の交換が円滑に行えるよう、当面、3.5インチMOディスク（以下 MOディスク）を交換用物理メディアと想定することとした。

なお、本暫定規準では、6.3mm幅磁気録音テープやDATテープとの併用を考慮して、可能な限りNAB技術規準R003、R011およびR022との整合性を図るとともに、JPPAの「BWF-J レベル1 運用規定」に準拠することにより、民放社以外とも機器の共通化等が可能となるよう配慮した。

2. 主たる点の説明

(1) 用語の意味

本暫定規準で用いる用語について説明した。

(2) 音声ファイル形式

本暫定規準を制定する時点では、BWF-Jで定めるWAVEデータはリニアPCMのみであるが、圧縮の有無および量子化レベルで16ビット以外を使用する場合については、当該者間の事前の取り決めによるものとする。

RIFF (Resource Interchange File Format : Windowsで使われている, さまざまなマルチメディアを扱うファイルフォーマット) Waveform Audio File Format規格ではステレオ音声のデータ入力 (data packing) 方法として, チャンネル0は左チャンネル音声データ, チャンネル1は右チャンネル音声データを入力することと規定している。

(3) 複数番組収録の禁止

本暫定規準では, 番組ファイルについては誤送出を防ぐため, 1物理メディア (本暫定規準ではMOディスクを想定) につき1番組ファイル, 1番組ファイルにつき1番組を収録することを前提としている。

ただし, 当該者間で事前の合意が得られればその限りではない。

(4) 時間の連続性

本暫定規準では, プログラムの再生は時間軸に沿って音声データを順に再生することを前提としている。このため, 通常のプログラムを再生する場合, プログラム再生開始位置 (BC \$ STANDBY) からプログラム再生動作終了位置 (BC \$ STOP) もしくはファイルの最後の位置まで停止することはない。

これは, プログラム再生中にBC \$ START, BC \$ CM, BC \$ ENDの各Cueポイントを検出しても, 再生機は停止することなく再生動作を維持することによる。

(5) 録音形式

当面は6.3mm幅磁気録音テープと併用して使用されることを考慮し, クレジットおよびレベル規正用信号を記録することとしたが, BWF内に存在するbext (Broadcast audio extension) チャンク等を用いてクレジット情報等を入力することも可能である。

なお, bextチャンクを用いたクレジット情報等の収録については, 当該者間の事前の取り決めによるものとする。

(6) BC \$ ラベルの運用

BC \$ ラベルについて, 「BWF-J レベル1 運用規定」に基づき解説する。

① BC \$ STANDBY (再生動作の待機, スタンバイ) …必ず付加する。

BC \$ STANDBYで指定したCueポイントで停止し, STANDBY-TALLYを出力する。ON-AIR動作時はWAVEファイルの読み込みと同時にPlaylistを検索し, 最初のBC \$ STANDBYで指定されたCueポイントで待機する。待機中に “Play” コマンドを受けるとCueポイント位置から再生を開始する。

再生動作中にBC \$ STANDBYを実行した場合は, そこで指示されたCueポイントに待機するので, 本暫定規準では1番組ファイル中に1箇所しか使用を認めないこととした。

② BC \$ START (再生開始点)

Playlist動作で再生開始点を示すときに使用する。このラベルを選択 (PlaylistのPlay-segment選択) した状態で“Play”コマンドを受けると、そのCueポイント位置から再生を開始する。

ON-AIR動作で再生中にこのラベルを実行しても動作上の変化はない。BC \$ STARTは他のラベルと異なり、実行しても機器動作上の変化は発生しない。このラベルの目的は音声ファイル上に“マーク”を打つことにある。Playlist再生動作ではBC \$ STARTラベルを“マーク”として使用することで、効率良く再生開始点やチェックポイントの“頭出し”が可能となる。

③ BC \$ CM (CM差し替え制御)

BC \$ CMで指定したCueポイントでCM-CUE信号を出力する。このときプログラムの再生動作は維持する。

④ BC \$ END (プログラムの再生終了とEND-CUE制御)

BC \$ ENDで指定されたCueポイントでEND-CUE信号を出力する。プログラムの再生動作は維持する。ただし、プログラムの再生終了時の制御信号として使用する場合は、各社の運用形態によりその位置が異なる場合が考えられるため、注意が必要である。

⑤ BC \$ STOP (再生動作終了位置)

BC \$ STOPで指定したCueポイントでSTOP-CUE信号を出力し、プログラムの再生を自動終了する。

ただし、当ラベルを付加しない場合でもファイルを最後まで再生した場合には、機器は自動的に再生動作を停止する。

⑥ 運用上の注意

BWF-Jでは、複数のBC \$ ラベルを同一位置に指定することを認めている (複数のCueポイントを同一サンプルナンバーに指定できる) が、その際のBC \$ ラベルの動作順については規定がなく、そのため制作者の意図する順番とは異なる動作をする場合があることから、本暫定規準ではこれを認めず、1サンプル以上の間隔を空けて指定することとした。

(7) 記載事項

録音内容表は、6.3mm幅磁気録音テープやDATテープの番組交換規準からの無理のない移行を考慮し、当面、紙に印刷して添付する。なお、ファイル化した録音内容表等の添付については、当事者間の事前の取り決めによるものとする。

R024-2004

(8) 記録メディア

① 推奨する物理メディアとその規格

本暫定規準では、記録する物理メディアについては、特に規定しなかったが、CMを含む音声番組の交換が円滑に行えるよう、当面、MOディスクを交換用物理メディアとして推奨することとした。なお、使用するMOディスクの容量については、当該者間の事前の取り決めによるものとする。市販されているMOディスクの規格および音声のみ記録した場合の録音時間の目安を、表1に示す。ただし、表中の2.3GBのMOディスクは本暫定規準検討時点においては動作が確認されていないため、1.3GB以下のMOディスクを使用するものとする。

また、番組交換に使用するMOディスクの記録容量は、BWF-Jでは音声ファイル以外に番組キューシートやアナウンス原稿等の情報も記録可能であることから、番組長に対して十分余裕があることが望ましい。

② 物理メディアの取り扱いと収納ケースについて

物理メディアは必ずフォーマットしてから使用する（簡易フォーマットではなく完全フォーマットが望ましい）。また、誤消去防止孔のある録音済み物理メディアにおいては、防止孔を開放にしておくことが望ましい。

録音を依頼する物理メディアは、依頼者がフォーマットする。

ケースに収納できる物理メディアの場合、ケースは取り扱い易い形状であることが望ましく、また物理メディアを保護するための十分な強度をもつとともに、ほこりなどが容易に入り込まない構造とする。

容量 (MB)	128	230	540	640	1300	(2300)
JIS規格	JIS X6272	JIS X6275	JIS X6277		業界標準	(業界標準)
JIS名称	90mm*1書換型及び再生専用型光ディスクカートリッジ*	90mm/230MB光ディスクカートリッジ*	90mm/640MB光ディスクカートリッジ*			
ISO/IEC規格	ISO/IEC10090	ISO/IEC13963	ISO/IEC15041			
ISO/IEC名称	Information technology - 90 mm optical disk cartridges, rewritable and read only, for data interchange	Information technology - Data interchange on 90 mm optical disk cartridges - Capacity: 230 megabytes per cartridge	Information technology - Data interchange on 90 mm optical disk cartridges - Capacity: 640 Mbytes per cartridge			
録音可能時間*2	10分	18分	43分	51分	101分	(179分)

*1 JISでは25.4mm×3.5インチ=88.9mmであることから、“90mm”と表記している（1インチ=25.4mm）。

*2 音声のみを記録した場合の最大容量。1秒間に必要な記録容量を192kBとして計算し、1分未満は切り捨て。

表1. 3.5インチMOディスクの容量と規格（参考値）

進行表・素材明細表 統一様式

〔サイズは全てA4判〕

◆ラジオ番組CM進行表	
・枠なしタイプ	21
・枠つきタイプ（1カ月分）	22
◆ラジオナイターCM進行表	23
◆ラジオスポットCM進行表	
・1週間分タイプ	24
・1カ月分タイプ	25
◆ラジオCM素材明細表	26

※ 統一様式のファイルは、民放連ホームページ（<http://www.j-ba.or.jp/>）の「参考資料」「ラジオ営業関連」からダウンロードできます。

ラジオ番組CM進行表

_____年 月 日発行

契約No. _____

ネットCMさしかえ 有 ・ 無 _____

番組名 _____

提供 PT	秒
_____	_____

放送期間 _____年 月 日() ~ _____年 月 日()

放送時間 _____時 分 ~ _____時 分

広告会社名 :

TEL : _____ 担当 : _____

放送局
提供クレジット・連絡メモ

素材タイトル (素材番号共通コード)	秒数	素材記号	在局	搬入日

--

ラジオ番組CM進行表

_____年 月 日発行

契約No. _____

ネットCMさしかえ 有 ・ 無 _____

番組名 _____

広告主	提供 PT	秒
-----	----------	---

放送期間 _____年 月 日() ~ _____年 月 日()

放送時間 _____時 分 ~ _____時 分

広告会社名 :

TEL : _____ 担当 : _____

放送局
提供クレジット・連絡メモ

素材タイトル (素材番号共通コード)				秒数	素材記号	在局	搬入日	
CM枠	秒数	/ (月)	/ (火)	/ (水)	/ (木)	/ (金)	/ (土)	/ (日)
CM枠	秒数	/ (月)	/ (火)	/ (水)	/ (木)	/ (金)	/ (土)	/ (日)
CM枠	秒数	/ (月)	/ (火)	/ (水)	/ (木)	/ (金)	/ (土)	/ (日)
CM枠	秒数	/ (月)	/ (火)	/ (水)	/ (木)	/ (金)	/ (土)	/ (日)
CM枠	秒数	/ (月)	/ (火)	/ (水)	/ (木)	/ (金)	/ (土)	/ (日)

ラジオCM素材明細表

素材搬入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

広告主 _____

広告会社： _____

TEL： _____ 担当： _____

	素材タイトル (素材番号共通コード)	秒数	素材記号	ファイル名	(※放送局使用欄)
				使用期間	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
備考欄					

注：使用如何にかかわらず、MOディスクに収録されている素材の名称は全て記入してください。